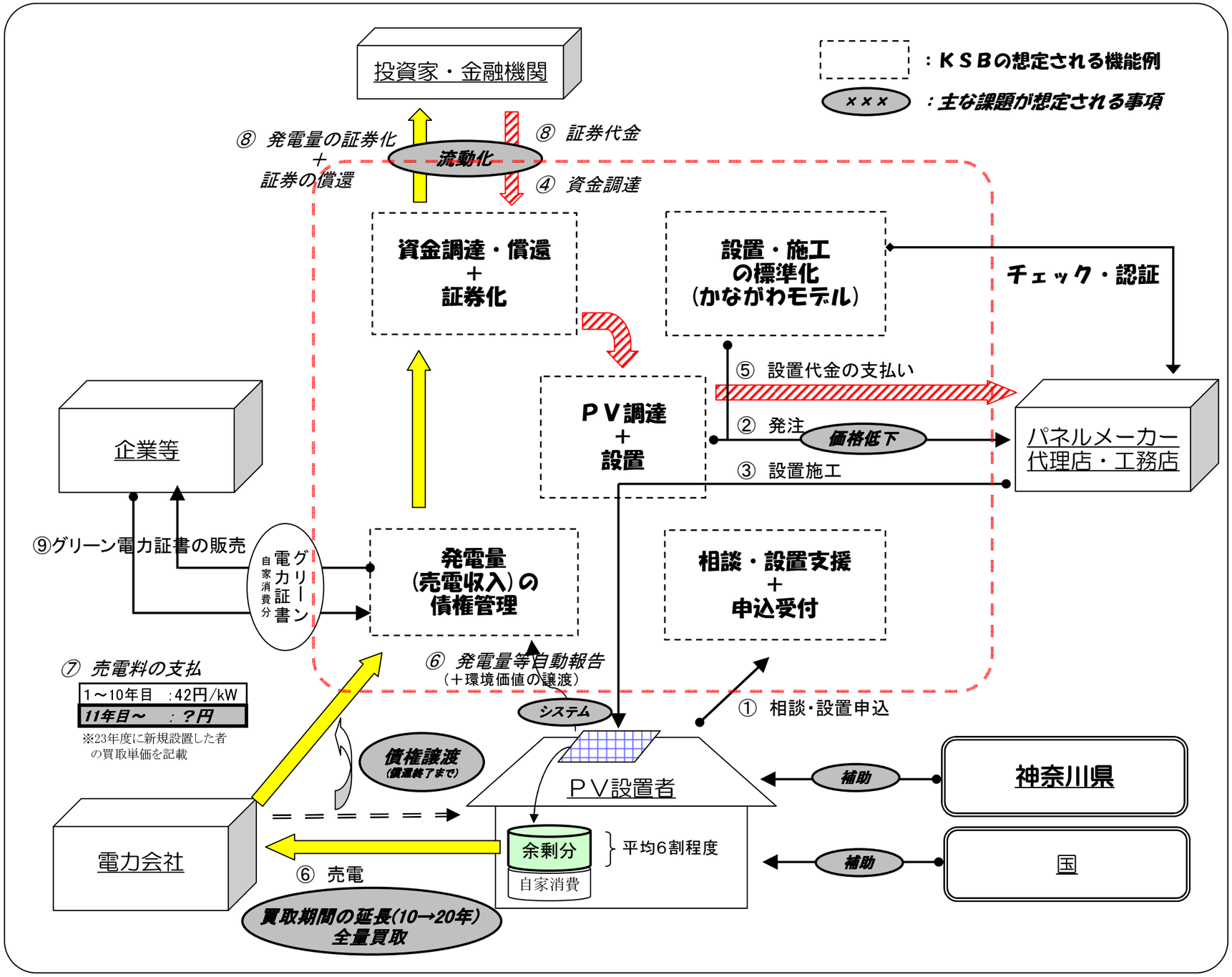
資料７

かなわがわソーラーバンク構想の基本スキーム案（たたき台）



基本コンセプト

Ⅰ　太陽光発電設備（ＰＶ）導入に伴う初期費用負担をなくし、現状の電気料金負担の範囲内での設置が実現できる仕組みの構築を目指す。

Ⅱ　民間資金とノウハウの活用により、かながわソーラーバンク（ＫＳＢ）が、独立性を有しつつ、市場で自立的に事業継続が可能となる仕組みの構築を目指す。

スキームの特色

Ａ　大量調達により、ＰＶの調達・設置工事費用の大幅な低減を期待
－　ＫＳＢによる大量調達
－　設置・施工の標準化
　→「かながわモデル」仕様

Ｂ　ＰＶ設置に必要な初期費用は、まずＫＳＢが調達。ＫＳＢは、設置者から売電収入に係る債権（発電量債権）の譲渡を受け、一定期間をかけて設置費用等を賄う。

Ｃ　ＫＳＢは、資金調達の円滑化や採算性の向上を目指すため、発電量債権の流動化（証券化）を行い、投資家に販売する。

Ｄ　ＫＳＢは、天候による発電量の変動やＰＶ設置家庭の自家消費量の変動に対しては、発電量債権の回収期間の短縮または延長により対応する。